

## 三藩市唐人街の社会構造（七）

—— 広肇帮の一典型 ——

内 田 直 作

### 八 中華総商会と唐人街経済の発展

その設立』上述してきた地域別会館、姓氏団体、堂会、中華總會館』俗称「六公司」のほかに、経済的集成団体としての中華総商会がある。

サンフランシスコの中華総商会は一九一〇年三月二六日に「旧金山華商總會」の名のもとに創立されている。その前身は同年より二〇余年前から存在していたといわれる。その初期においては、主として輸入商達によって組織されていたが、一九一〇年総商会結成後は漸次華商全体に対して開放されていったとされている。<sup>11)</sup>

本国において、康有為の変法自強説を背景として、清朝が商会設立を明文化したのは、光緒二十九年（一九〇三）

### 三藩市唐人街の社会構造 (4)

十一月上諭としての商会簡明章程の奏定によるものであった。<sup>(2)</sup>

もちろん、商会の前駆的存在としては、一九世紀代後半には、広州の西共堂七十二行、沙市十三帮、重慶八省首事等があり、さらに総理衙門も光緒二十一年（一八九五）末、上奏して商会の前身ともいふべき「商務局」を各省主要都市に設立せしむべきこととしていた。上海にも、光緒二十七年（一九〇一）九月上海駐在鐵路大臣盛宣懷（江蘇武進人）によって、寧波出身の巨商の嚴信厚（通商銀行総董）を総理として各帮会館公所連合によるその統一的機関としての「上海商業會議所」が設立されていた。三藩市にも商会の前身が一九世末から存在していたことも当然のこととして首肯されうる。

商会簡明章程が光緒二十九年（一九〇三）に公布されてから、その翌三十年には北京・上海・天津・漢口・通州・廈門・烟台・安慶等の各地、光緒三十一年には広州にも商会の設立をみた。

海外でも、光緒三十二年（一九〇六）にはマニラとシンガポール、光緒三十三年には長崎、同三十四年にはバタバヤの各地、宣統元年（一九〇九）には神戸、同二年（一九一〇）には大阪とサンフランシスコに商会が設立されている。

右のごとく、内外の各地に商会の設立をみたが、同じく商会名も呼称してもその実体には相違がみられた。上海・広州・シンガポール等の各地のそれらは、当該都市の中国人商人社会の最高集成団体としての機能を果たしていたが、サンフランシスコのそれは、一九世紀末設立当初には前述の通り少数輸入業者のみの関与するものであり、別に最高集成団体として一九世紀中頃すぎに「三藩市中華總會館」の設立をみて今日におよんでいる。

サンフランシスコでは、商人集団としての三邑（広州府南海県、番禺県、順徳県）系と、労働者集団としての四邑

(広州府の台山県、新会県、肇慶府恩平県、開平県)系、ないしは六邑系(四邑に肇慶府鶴山県と広州府赤溪県を含めたもの)との間には、土語的にも相違する以外に経済的にも相違がみられる。清代の外国貿易独占港の広州省城をとりまく、南海、番禺、順徳の「三邑」系は、早くから外国貿易にも関連して商人資本としての地位の向上をみていた。他方、カリフォルニアのゴールド・ラッシュに進出した労働者集団は「四邑」のほか、最近では四邑に隣接する客家専任の赤溪県、肇慶府鶴山県をもふくめて「六邑」(古岡州)と呼称される珠江河口西岸の六邑の出身者がその主体を形成していた。<sup>(6)</sup>

サンフランシスコの唐人街における最大規模の堂斗(一八九〇)は三邑堂と萃勝堂(四邑系)との間に展開されたものであり、それは資本家側の三邑幫と労働者側の四邑幫との対立でもあった。(本誌、第二四号所載本稿<sup>(5)</sup>、第九四頁)。

三藩市中華總會館がサンフランシスコ唐人街全体を統轄する団体であるのに対して、「旧金山中華總會館」は前述のごとく少数の輸入業者達によって設立され、当初から商人的な三邑系を主体としおり、その傾向は今日までうけつがれている。たとえば、一九六三年度の同総商会の会長一名は三邑系、副会長の二名のうち、一名は三邑系、他の一名は陽和(広州府中山県)系であって、四邑ないしは六邑系の参加をみていない。その董事二三名中にも、唐人街のマジョリティーである四邑の台山系は比較的少なく、大部分が三邑系、陽和系、肇慶府系である。

同様の傾向は広東省人が多数を占める香港(広東省人二三一万人、福建省人一六万人、客家二三万人、上海系七万人、北京語系三万人、一九六一年度)における「香港中華総商会」の場合についてもみられる。同会の会董一〇三名(一

三藩市唐人街の社会構造 (4)

九六二年度)のうち、広東省の三邑系が筆頭で二五名、潮州系一七名、四邑系一三名の順位であって、三邑系は副会長四名のうち、二名をも占め、三藩市の場合と同様三邑系の優越的地位が明らかにされる。<sup>(4)</sup>

中華総会館の董事五五名については、人口比的に四邑(台山・恩平・開平・新会の四邑)系の甯陽(台山県)二七名、合和(恩平県・開平県)系六名、岡州(新会県)系五名のほか、肇慶府系八名、陽和(中山県)系五名、三邑(南海・番禺・順徳の三邑)系三名、人和(赤溪県)系一名であって総商会のそれとは全然逆の構成比を示している。したがって、サンフランシスコの中華総商会は戦前本国における「上海市商会」や、今日の「新嘉坡中華総商会」のごとく、当該地の中国人社会全体を統轄する自治的機関としての性格が少なく、マイノリティーの商人団体の傾向がつよい。中華総商会の会址もサクラメント街の一小ビルのうちにあつて、スタックトン街の中華総会館のそれに比較すべくもない。

その内部機構は「旧金山中華総商会」の内部機構は、総務科・書記科・遊芸科・遊芸科・女皇科・選美科・加冕科・財政科・中文宣伝科・西文宣伝科・巡遊科・街会科・金龍瑞獅科・奨券科に分かれている。右の分科名にも明らかにされる通り、観光地としての唐人街を彩どる催し物が商会の主要事業とすらなっている。

総商會を構成する組合、ないしは商店の業種としては次の通りの六行があげられている。

雞 鴨 行

餐 館 酒 吧 行 (レストラン・バー)

弁 庄 什 貨 行

西 商 行

古玩行(骨董品店)

雜行

漢口三百六十行、広州七十二行、香港五十五行、今日の海外におけるクアラルンプールの三十二行団（現在名、セランゴール華人行団商會<sup>6)</sup>）等に比較すれば問題とならない小規模のものである。

行の名称「ここで「行」の名称について付説しておこう。「行」は広東音では行<sup>ハク</sup>＝Hong 北方音では行<sup>ハク</sup>＝Hang である。その語義は行<sup>ハク</sup>であって、街路を意味し、同時に街路にならぶ店とその組合を意味する。唐宋代からは都市に行の發達をみていることが明らかになされ、マルコ・ポーロの東方見聞記のうちにも元代中国の各都市に多くの行<sup>ハク</sup>の立ちならんでいたことが記述されている。当時の中国沿岸にまで来航貿易したアラビア商人を通じて行<sup>ハク</sup>は海路をへてイタリア諸都市の商館の Fondaco の語源となったとさえ推測される<sup>6)</sup>。さらに、中世から近世初期にかけての北ドイツのハンザ諸都市の Hansa の名称も北方音の行<sup>ハク</sup>＝Hang に起源するものではないかと憶測させられる。本国諸都市ではすでに中世から、海外の華僑社会では近世にはいつてから「行」は各都市に遍在していた。

歴代の中国政府は都市における商人の不当な中間商業利潤の収奪を統制するため、官許の仲立手数料商人制度を設定し、明代におよんで牙行制度の定型ができあがり、戦前にまでおよんでいた。牙行の淵由するところは、周礼の司市、質人の制まで遡りえられ、前漢桑弘羊の均輸官、王奔の五均官、晋国の駟儉、唐代の市牙、宋代王安石の市易務の牙人等、官設の仲立機関として何れも牙行の先駆的存在であった。元代は牙行制度について否定的態度をとったが、なお庄宅人口（不動産、人身売買）の官牙と海上貿易の舶牙とがあった。明代におよんで、唐

律を採用しながら牙行制度の定型が完成し、清朝もこれをそのまま踏襲していった。<sup>(7)</sup> なお、ここにいう牙行の牙の語義には諸説があるが、私見をもってすれば、端的に原意に即して大齒であつて、国用を充たし、民を養うため、市に集るところの天下の貨を食するところの食、貨(経済の意)のための大齒、すなわち有無相通の取引の仲介を掌るものを指したとすることが、牙の妥当な本源的解釈であると信ずる。

何れにもせよ、牙行は歴代の市場統制の産物であり、外部的には重要商品に関する商業投機の防止と公平価格の保持を標榜しつつ、事実上は国家財政収入の主要源泉の一つとすることにあつた。牙行は西欧ドイツの“Makeler”や、オランダの“Makelaar”にも相通するものがあつた。

清朝の倒壊後は牙行制度の規定も弛緩して、その後は単なる牙税徴収機関にしかすぎない実情にあつた。さらに、仲立手数料取引の埒外にでて、前貸の問題屋商人・投機商人に墮していった。一八四二年英清間南京条約第五条により、外国貿易独占機関の公行⇨Co-hong 制度の廃棄をみて後、成立した買弁制度も牙行の変型的発展をみたものでもあつたし、<sup>(8)</sup> 日本では漸く「銀行」の名称にその名残りをとどめている。

郊の名称⇨広肇帮では都市の中間商人に「行」の名称が慣用されるが、福建帮、ないしは潮州帮では、行に代えるに「郊」⇨Kao の名称をもつてしている。たとえば、戦前本国の廈門における「廈門十途郊」、「寧波郊」(五穀行)、「廈門北郊」、「台湾郊」等、今日のシンガポールにおける福建帮の「安南郊」、「爪哇郊」、潮州帮では「醬園・金菓・香油三郊連合会」、「星洲暹郊公会」、「西勢郊」、「海嶼郊」等がその目立った存在である。

何故に、福建・潮州帮の場合には、とくに「郊」の名称を使用するのか。右についての見解を冗説的であるが、述べておくこととしよう。一般に、中国人の自然・宇宙に対する起源的觀念に二元主義が支配しているだけで

はなく、その知的表現、言語における対句法、工芸におけるシンメトリーにも二元主義が支配している。卑近な例証では、北京城外の天壇・地壇、新中国の新民主義経済段階における「公私兼顧・労資両利」のごときスローガン、部屋の椅子をどのように乱雑に配置していても、中国人掃除婦達は常にシンメトリカルに配置整頓していつてしまふ。

このような中国人思想のうちに普遍的な二元主義は起源的には「天」・「地」が宇宙を創生した父母、すなわち「惟みるに天地は万物の父母なり。」(書経・周書・泰誓上)の觀念にまで遡りえられる。「郊」の名称もまたこの自然崇拜に起源する二元主義の産物とさえみられる。以下、右に關しての私見を述べておこう。

潮州人は今日広東省に所属しているが、言語的・習俗的、さらに社会経済的にも隣接の福建幫のそれに近似して俗に「福佬」||「Fokos」とさえ呼称され、潮州人も福建人と同様に「郊」の名称を慣用する。福建人や潮州人は同姓村落を「社」と呼称し、その進出先の国内諸都市、さらに海外の諸都市においても「社」の名称のもとに一姓の村落団体|| Village community を組織する場合が少くない。海外におけるその顕著な今日の例としては、西マレーシアのペナンへ進出した福建省海澄県出身の一姓村落団体として、邱氏の新江社龍山堂、楊氏の震陽社植徳堂、林氏の林東社九龍堂、謝氏の鰲冠社世徳堂等の「社」が林立している。シンガポール福建幫の領袖の陳嘉庚、その族弟の陳六使の何れもは福建省同安県の集美社(陳姓村落)の出身でもあった。

右のごとく、出先の諸都市にも「社」を組織するが、他面同時に前述の「行」を福建・潮州系の場合にとくに「郊」と呼称したのは、上述の二元主義の立場から土地を祭る「社」に対して、天ないしは日を祭る「郊」、すなわち天地の祭りをする「郊社」の二元主義的呼称を採用し、都市に林立する同姓村落団体の「社」に対し、同

### 三藩市唐人街の社会構造 (七)

じく街路に立ちならぶ都市中間商人の中核体の商店と、その組合を「郊<sup>かほ</sup>」と呼称し、相對置せしめる風習がいつのまにかに成立するにいたったものと理解される。

カリフォルニア州に進出した広東省西南部方面の六邑集團の郷里については、本稿(三) (本誌第二十二号所載)のうちにも明らかにした通り、福建省の場合と同様、同姓村落団体が遍在しているが、「社」とは呼称しないで「村」名を一般に用いていることからして、福建幫のごとく「郊社」の二元主義的置法とるにいたらなかったものとみられる。「行」と「郊」とは名称は相違しても、その実体についてはかわるところはない。

力州華僑經濟の変遷Ⅱここで、迂廻してカリフォルニア州における華僑經濟の変遷の経過について概観しておこう。

一九世紀中頃からのカリフォルニア州への華僑の進出は、その初期には金鉱山採掘労働者としてであって、四邑系に鶴山・赤溪の両県をふくめた六邑系と、三邑系の集團があった。そのうち台山県をふくむ四邑集團が当時から今日にいたるまでマジョリティーを構成している。一八四八年から開始された初期の金鉱山採掘も州政府の免許税政策により一八七〇年頃になるとしめだされる。第二期には農業・鉄道建設・製材・園芸・生果収獲、さらに都市における洗濯・製靴・羊毛糸髪製造・葉巻製造・仕立業等の方面に進出し、第1表にも明らかにされる通り、労働組合主義者の流れを汲む白人労働者達と競争関係にはいつていった。この第二期の頃から三邑系は資本家集團、六邑系は労働者集團としての対立が生じ始めていた。

第1表によれば、一八七〇年当時のカリフォルニア州の四大工業の労働者は、国内出生のアメリカ人はなお少く、大部分は外国人労働者であって、中国人もとても多く、アイルランド人がそれについている。

第1表 特定製造業における被雇用者

(年令・性別・出身国) サンフランシスコ, 1870年アメリカ人口調査

製造業名	合計	性別 16~59才		出身国名				
		男性	女性	アメリカ	ドイツ	アイルランド	イングランド・ウェールズ	中国
製靴業 人員数	1,551	1,462	50	312	294	403	57	296
百分比	...	94	3	20	18	26	3	19
製煙業 人員数	1,811	1,799	2	38	45	5	2	1,657
百分比	...	98	...	2	2	...	...	91
毛織物業 人員数	393	377	4	69	7	34	17	253
百分比	...	95	1	17	1	8	4	64
縫衣業 人員数	1,223	621	574	243	300	280	50	110
百分比	...	50	46	19	24	23	4	9
合計 人員数	4,978	×4,239	630	×660	646	722	126	2,316
百分比	...	85	12	13	13	14	2	46

Mary Robert Coolidge, Chinese Immigration, New York, 1909, p.359. ×印, 不正数

右の四大工業は何れもお機械設備は十分でない労働集約的生産方法によっていたが、そのうち中国人労働者の支配していたのは製靴業・製煙業・毛織業であった。<sup>60</sup> これらの工業で、中国人労働者ともっともはげしく対立したのはアイルランド人労働者であった。アイルランド人のキアーニー＝Dennis Kearney (1847-1907) を指導者として、一八七七年の砂地暴動＝Sandlot Agitation で中国人労働者しめだしのキアーニイズムはその頂点に達していた。製靴業で排華運動を推進した労働組合は、"the Knights of St. Crispin"であった。製煙業では、カリフォルニア白人労働連盟＝the White Labor League of California による

た。一八八二年の排華法 *the Chinese Exclusion Law* の公布後は、中国人労働者のしめだしは効果を奏していた。毛織物業については東部のそれとの競争のもとに、一九世紀末には後退消滅していつている。<sup>10)</sup>

鉱山・鉄道建設からのしめだし、さらに一八七〇〜八〇年代のカリフォルニアの右の三大工業における工場労働者としての足場も、白人労働者の組織的抵抗と、東部諸工業の競争的進出のまゝに喪失していった。第三期には中国人労働者達の大部分は、サンフランシスコのグラント・アベニュー方面へ集中移動し、今日の唐人街を形成し始めた。その一部は強硬な排華政策に影響されて本国へ帰還していった。残留した多くの独身の失業者達は、白人労働者とは非競争的な中国人特有の伝統的職業の分野を開拓していった。ホテル・食堂・富裕家庭のキッチンから家事使用人・洗濯・蔬菜・園芸・行商人等の卑俗な職業分野であったが、その賃金収入は一九世紀から本世紀初頭にかけて二倍の増加をみていた。<sup>11)</sup>

これらの分散的な職業の未組織労働者を組織化していったのは、既述の堂会 *Tongs* であった。前期的な秘密結社組織で仲間の相互救済と勢力範囲の保安がはかられた。これらの堂会同士の械斗 *Tong war* がいくたびか唐人街で展開されたが、もともとはげしい堂斗は一八九〇年四邑系労働者集団と三邑系資本家集団とのそれであった。三邑系は時を同じくして前述のごとく「中華総商会」の前身を組織していた。三邑系が貿易商や雜貨商等の商人資本的進出をとげてゆく一方、マジョリティの四邑系と赤溪县(客家)、と鶴山県の二邑、あわせて六邑系の労働者集団は下位的職業分野を開拓していった。

庭師・牛乳配達・ごみ運びから広東人の伝統的職業の洗濯・料理・理髪・こえび漁業、ひいては賭館・煙館(阿片吸飲)等にもまでおよんでいた。なかでも、ハンド・クリーニンングが圧倒的多数を占めていた。過去のスペイ

第2表 カリフォルニア州某地区の中国人の職業 (1904年度)

職 種	都 市	町 (1)	町 (2)	そ の 他	地区合計
商 店 数	22				22
組 合 員 数	64				64
投 下 資 本 額	72,000ドル				72,000ドル
コ ッ ク	55	6		18	79
庭 師	7	4	38	12	61
勞 働 者	21	24		13	58
八 百 屋	7			2	9
理 髮 師	2				2
仕 立 屋	2				2
通 訳 男	2				2
作 業 夫	1			1	2
漁 夫 工	1	1			2
大 ぞ の 他 職	4				4
無 洗 濯 屋 子	4				4
女 子	92	5		15	112
					7

三藩市唐人街の社会構造 (七)

Mary Roberts Coolidge, Chinese Immigration, New York, 1909, p.444.

ン支配の時期を過ぎて、東部からの白人進出をみるとともに、生活態様も一変してクリーニング業が多忙をきわめだしていた。

これらの洗濯業者達はすでに光緒初年(一八七五年)には“Kwong Hong Tong”(広鴻堂)を組織していた。入会金は一〇ドルであつて、堂の免許なくして開設の自由はなかつた。違反する場合には血をもって肅清された。<sup>00</sup>なお、今日のサンフランシスコの洗衣行は東慶堂=Dung Hing Laundry Associationと呼称している。ハンド・ラウンドウリーは別に華人衣館工会=Chinese Hand Laundry Associationを組織してゐる。

当時の白人労働者とは非競争的な低位の雑業職種の統計について、サンフランシスコ自体のものは明らかにしえないが、クリーリッジ=Mary Roberts Coolidgeが引用している

第3表 アメリカ職業別人口数

(1920年度アメリカ人口調査)

職 業	全 人 種		中 国 人	
	男 子	女 子	男 子	女 子
農業・森林・家畜飼育	9,869,030	1,084,128	5,015	34
鉱 業	1,037,359	2,864	151	—
製 造 業・機 械 工 業	10,888,183	1,930,341	4,081	175
運 輸	2,850,528	213,050	782	8
商業(事務員をふくむ)	5,275,612	2,093,908	8,094	176
公 務 員	748,666	21,794	186	—
自 由 職 業	1,127,391	1,016,498	411	51
家事・人的サービス業	1,217,968	2,186,924	26,162	288
全 職 業 合 計	33,064,737	8,549,511	44,882	732
10才以上の人口数	42,289,969	40,449,346	51,041	5,189

三藩市唐人街の社会構造(乙)

Eliot Grinnell Mears, Resident Orientals on the American Pacific Coast, New York, 1927, p.206.

カリフォルニア州の某地区の統計を明らかにすれば、第2表の通りである。

これらの小地区での計四三一人のうち、女子は僅かに七名で、成人男子の平均年令は四五才であった。これらの手職的な雑業種のうち、ここでも洗濯屋が最大多数を占めている。

さらに、後年の一九二〇年度のアメリカ人口調査における在米の全人種と華僑の職業別人口数は、第3表の通りである。

第3表によると、「全人種」については、第一位「製造業・機械工業」、第二位「農業・森林・家畜飼育」、第三位「商業」、第四位「家事・人的サービス」の順位であるが、華僑のそれについては、完全に全人種の場合とは逆立関係となっている。華僑がいかにか白人とは非競争的な部門に進出していったかが明らかにされる。

次に、同年度の右の四部門についてのアメリカに

第4表 農業・森林・家畜飼育部門における華僑人口数

(1920年度アメリカ人口調査)

職 種 別	中 国 人	
	男 子	女 子
酪農園農民・畜産者	399	2
酪農園・畜産労働者	2,354	14
酪農園農場・果樹園職長	49	—
漁夫・カキ採り男	100	1
庭師・花作り・果実生産者・種苗園主	636	6
花園・温室果樹園・種苗園労働者	1,432	11
その他	45	—
合 計	5,015	34

Eliot Grinnell Mears, op. cit., p.240.

における華僑人口数（一九二〇年度アメリカ人口調査による）を部門別に明らかにすれば、第4〜7表の通りとなる。

以上の第4〜7表によって、一九二〇年現在におけるアメリカ全土の中国人経済が、アメリカ経済において低位な競争的というよりは、むしろ補完的關係において成立していることが明らかにされる。そのうち、三藩市唐人街に関連するものは、主として第5・6・7表であつて、第4表の「農業・森林・家畜飼育」部門は都市外であるからここでは問題外としよう。

第5表でも、建築・魚類保蔵包装・果実蔬菜罐詰・自動車・鉄道工場・製鋼所・製材工場・鉄鋼業関係労働者・半熟練工は唐人街とはほぼ無関係とみなしう。これに反して、その他の大工・植字工・製衣業・製靴業・靴直し・洋服仕立等の多少とも手職的な部門は、唐人街との関連性が少くないものとみられる。第6・7表の各部門は唐人街との直接的関連性が把握されう。人口数的にも、第7表の「家事・人的サービス」部門が第3表にみられる通り、全有職人口数の五八・三パーセント、第6表の「商業」部門が一八・〇パーセントを占めている。唐

第6表 商業部門における  
華僑人口数

(1920年度アメリカ人口調査)

職 種 別	中 国 人	
	男 子	女 子
銀行・仲立・金貸し	26	—
商店事務員	796	29
小売商人	4,276	37
肉屋	(211)	—
骨董商	(228)	(2)
薬屋	(147)	(1)
呉服・小間物商	(400)	(9)
果物商	(35)	(1)
雑貨商	(512)	(7)
食料雑貨商	(1,267)	(7)
行商人	(292)	(1)
農産食料品商	(171)	(1)
販売人(男女)	1,610	48
卸売・輸出入商	142	—
会計・現金出納係	444	22
事務員(商店以外の)	232	11
その他	241	23
合 計	8,094	176

Eliot Grinnell Mears, op. cit., p.285.

第5表 製造業・機械工業における  
華僑人口数

(1920年度アメリカ人口調査)

職 種 別	中 国 人	
	男 子	女 子
大工	47	—
植字工・リノタイプ工・植字機工	10	—
労働者		
建築	939	3
魚類保蔵・包装	755	2
果実・蔬菜缶詰	575	8
自動車・鉄道工場	18	—
製銅所	1	—
製材工場	18	—
機械技術者	30	—
機械工	24	—
半熟練労働者		
製衣業	128	29
魚類保蔵・包装	105	12
鉄鋼業	33	1
製材工場	2	—
製靴業・靴直し	24	—
洋服仕立屋	171	6
その他	1,201	114
合 計	4,081	175

Eliot Grinnell Mears, op. cit., p.263.

三藩市唐人街の社会構造 (七)

第7表 家事・人的サービス部門における華僑人口数  
(1920年度アメリカ人口調査)

職 種 別	中 国 人	
	男 子	女 子
理髮師・美容師	82	2
玉突場・公開賭博場経営者	12	—
下宿経営者	94	7
派出婦・掃除婦	8	—
ホテル経営者・支配人	82	—
門衛・寺男	219	2
洗 濯 工	11,534	43
洗濯業者・支配人	980	2
運搬人夫・赤帽	181	—
レストラン・カフェ・食堂経営者	1,668	17
ベルボーイ・雑役	39	—
召 使	16	—
料 理 職	6,888	55
雑 使 用 人	1,329	77
給 仕 人	2766	44
クリーニング職人	5	—
・修繕屋	259	39
そ の 他		
合 計	26,162	288

Eliot Grinnell Mears, op. cit., p.301.

人街有職人口を構成するものとみられるこれらの両部門が同時に圧倒的多数を占めている。

前述のごとく、鉦山・農場・鉄道建設・工場等の労働からしめだされた苦力達、奴隷的身分の前借による契約労働者は、白人労働者と非競争的な分野を開拓していったことが、前諸表により明らかにされる。初期の不熟練労働者、ないしは手職労働者の地位から、漸次業主的、商人的地位へ向上し、併行して手職的から機械の使用へと移行していった。

手職のうちもっとも優位を占めたのは第7表にも明らかにされる通り、洗濯工と洗濯業者であって、たたき洗濯 || hand laundry から、機械洗濯も出現するところとなった。<sup>45)</sup> サンフランシスコの洗濯業者達は、一八七五年当時には既述の通り Kwong Hong Tong || 広鴻堂を組織していた。一九一三年度の「万国寄信便覧」|| Int-

### 三藩市唐人街の社会構造 (4)

ernational Chinese Business Directory of the World, 1913, S. F. にはその堂名は「東慶堂会所」= Tung Hing Tong Society (18 Trenton Place) と記載されている。現在名も「東慶堂」= Tung Hing Laundry Association としてワナバーリー広場 = 36 Waverly Place に現存する。さらに、別個に「華人衣館工会」= Chinese Hand Laundry Association がワシントン街に存在している。後者が先の「広鴻堂」の後身でないかとみられる。

第7表によれば、手職では洗濯について、伝統的な郷土食の料理職が多数を占めている。これらの唐人街で支配的な手職、ないしは半熟練労働者達は何れも四邑、もしくは広義の六邑集団であって、商人的な三邑集団を主体とする中華総商会には参加しないで、中華総会館を上位団体として統轄されている。サンフランシスコの唐人街では六邑系の中国伝統の手職的労働者集団が圧倒的であって、三邑系の初期の輸入業者を主体とした中華総商会はマイノリティーの立場におしこまれている。そこには資本家集団としての三邑系と、労働者集団の六邑系との間に縦の家父長制的支配関係が成立しえないで、中華総商会の無力化を導いている。シンガポールの中華総商会にみられたような資本家集団と労働者集団との間になお縦の帮派的連帯関係、たとえば福建帮領袖の陳六使 = Tan Lark Sye (福建省同安縣集美社出身、シンガポール中華総商会名誉会長、シンガポール福建會館主席、益和ゴム有限公司董事長、1897-) と、左翼労働者政党の社会主義戦線 = Barisan Socialis との連携の<sup>はりせんせんしゆり</sup>とき、政治的に大きな影響力をもつ傾向は、サンフランシスコの場合にはみられない。サンフランシスコではむしろ労働者集団それ自体の派生的結社としての「堂会」が大きな役割を果していることは前節において述べた通りである。

さらに、サンフランシスコの中華総商会無力化を導いている大きな要因は、中華人民共和国の成立をみてから、本国の郷土経済との緊密な連関性の喪失をみたことである。華僑経済は郷土経済を主軸として展開されてい

ただに大きな打撃をあたえた。郷土色を豊かにして立ちあがってきていた唐人街経済の下降的傾向を促進せしめた。本国の金銀玉石細工・陶磁器・骨董品・家具類・乾物等の過去の唐人街いろどっていた郷土商品輸入の後退は、唐人街経済の実体に大きな変化をもたらした。他方、本国貿易との仲継港としての香港には、アメリカ（旧金山）とオーストラリア（新金山）への本国商品の仲継貿易商としての「金山庄行」があつて、戦前の香港五十五行の筆頭として有力であつたが、戦後は同様にその勢力の後退をみている。

**最近の業種別構造** 前記した通り初期の免許税制による金鉱山採掘からのしめだし、その後開拓した製靴業・製煙業・毛織物業の新規産業における白人労働者側からの排斥と、東部産業進出による後退、第二次大戦直前からの郷土経済との連関性の喪失にともない、唐人街経済の実体は大きな変化をみってきた。さらに、戦後の傾向は唐人街経済にも新態様の業種の出現をみるところとなり、その外貌を近代化せしめながら、アメリカ高度資本主義経済の底辺において漸くその存続をみている。

最近のサンフランシスコ唐人街の業種別統計は明らかにしえないが、一九六一年度の「三藩市華埠商業電話小冊」を根拠として、その業種の明らかにしうるもののみについて、業種別統計を作成すれば、第8表の通りである。右は正確な統計ではないが、最近の唐人街経済の外貌についての見当をつけるのに役立つであろう。

第8表は業種を明らかにしうるもののみを摘出しての不完全なものにすぎないが、なお洗濯業三五家、理髪・美容二三家、衣服関係三六家、飲食・食料品関係九八家等、伝統的職種が支配的であることが明らかにされる。だが、その場合にも飲食・食料品関係では、魚類・家禽等のマーケットが一四家、デリカッテセン・ペーカーリー等があり、その態様の近代化、もしくはアメリカカナイズの傾向がみられる。この近代化の傾向はその他の部門に

第8表 三藩市唐人街業種別統計 (1961年度)

業 種	軒数	業 種	軒数	業 種	軒数
大 工	2	印 刷 業	1	マ ー ケ ッ ト	14
油 漆	5	写 真 店	8	ガ レ ー ジ	4
洗 濯 業	35	劇 場	4	ガソリンスタンド	5
理 髮 業	12	旅 館	19	ツ ー リ ス ト	7
美 容 所	11	酒 家	12	輸 送 業	1
製 衣 業	24	酒 店	6	保 險 代 理 店	21
製 衣 工 場	3	餐 館	20	銀 行	2
仕 立 屋	3	酒 場	10	質 商	1
衣 服 商	6	茶 店	8	証 券 業	2
家 具 商	4	コ ー ヒ ー 店	6	不 動 産 業	11
靴 商	3	餅 店	6	貿 易 商	5
時 計・宝 石 商	8	製 麵 店	6	新 聞 業	4
煙 草 商	1	熟 食 店	1	職 業 紹 介 所	4
電 器 商	7	乾 物 店	1	薬 行	5
看 板 商	1	臘 味 店	1	薬 房	7
雜 貨 商	7	肉 店	4	西 医	22
レ コ ー ド 商	2	魚 店	2	中 医	9
銅 鉄 商	1	芽 菜 店	1	齒 科 医	13
眼 鏡 商	6	ミ ル ク 商	1	眼 科 医	1
書 店	5	菓 子 商	3	弁 護 士	9
美 術 品 商	2	麵 家	1	会 計 士	12
生 花 商	4	食 料 品 店	1	葬 儀 店	1
ス ポ ー ツ 用 品 商	1				

三藩市唐人街の社会構造 (七)

三藩市華埠商業電話小冊 (1961年度) により作成。

もうかがわれる。観光業のツーリスト、自動車関係のガレーヂ・ガソリンスタンド、西医と薬房、自由職業としての弁護士・会計士、そのほかの近代的保険業の浸透等である。華僑社会には伝統的に生命保険・失業保険、時として火災保険等についてもギルド保険が普及し、多くの団体には互助会・同済会等が附設されている。それにもかかわらず、第8表での保険代理店二一家を算することに、アメリカの唐人街では漸く近代的保険が仲間的相互保険にとつてかわつてゆく傾向のあることを示唆している。

華僑団体の相互保険の一例としては、たとえば「シンガポール東安会館互助会」の場合は、各会員は月捐一元を納付し、会員死亡のときはまず一〇〇元を支給し、後三カ月期間の決算で月捐総額の八〇パーセントを当該期間内の死亡者数に応じて平均分配することになっている。

セラングール州葉氏同済会の場合は月捐二元、死亡の場合は、まず普通同済金二二〇元を渡し、後五カ月決算で普通同済金を除いた残額の特別同済金が、五カ年間納付のものには一パーセント、六カ年ものには二パーセント、七カ年ものには三パーセント（以上一カ年毎に一パーセント）を加算して平均分配されることになっている。これらの互助組織とその実体については、別稿で詳説の機会をもつこととする。

同様の方法は東南アジア各地域の多くの華僑団体に共通して採用されている。生くるも死するも仲間とともにする、この互助会組織は広肇幫関係ではとくに発達しているが、サンフランシスコの場合については近代的保険と交代の傾向が明らかにされる。

何れにもせよ、第8表による最近の三藩市唐人街の経済構造は六邑系の手職的技術、たとえば洗濯・理髪・製衣・料理のほか家事的サービスを中心として、その上に商人資本的な三邑系が少数ではあるが、上位を占め、そ



Fundatum = Fundacum = Fondaco の説明については Yule, Cathay and the Way Thither, Vol. III, pp. 299~230. を参る。

(7) 牙行制度については、内田直作論文「中国における商業秩序の基礎——牙行制度の再検討——」一橋論叢第二十二巻、第二号所載をみよ。

(8) 内田直作論文「東洋におけるイギリス資本主義の発展方式」成城大学経済研究第一五号所載をみよ。

(9) Bruno Schindler, The Development of the Chinese Conceptions of Supreme Beings, (Asia Major, Hirth Anniversary Volume, London, 1922.) pp. 298~366.

(10) 内田直作著、前掲書、第一七九頁

(11) Mary Roberts Coolidge, Chinese Immigration, New York, 1909, pp. 357~377.

(12) Mary Roberts Coolidge, op. cit., pp. 115~122.

(13) Mary Roberts Coolidge, op. cit., p. 387.

(14) Alexander Macleod, Pigtaits and Gold Dust, Caldwell, Idaho, 1948, pp. 118~119.

(15) Eliot Grinnell Mears, Resident Orientals on the American Pacific Coast, New York, 1927, pp. 303~304.

(16) 戦前の「香港五十五行」は各商品別の「行」の大約の数であつて、筆者のノートによりそれらを列挙すれば次の通りのものがあつた。

- (1) 金山庄行、(2) 参茸行 (薬材)、(3) 南北行 (主として米穀取扱)、(4) 樟木行、(5) 織造行、(6) 茶葉行、(7) 洋貨行、(8) 新旧銅鉄行、(9) 電器行、(10) 牛皮行、(11) 沙藤行、(12) 上海庄行、(13) 出入口荘、(14) 銀行・銀業、(15) 燕梳行 (保険業)、(16) 蚕頭行、(17) 輪船行、(18) 柴炭行、(19) 煤炭行、(20) 集木行、(21) 檀香行、(22) 五行商行 (酒棧・茶棧・餐室・飯店・茶店)、(23) 塩魚欄行、(24) 果菜行、(25) 醬果行、(26) 客棧行、(27) 銀珠行、(28) 米業行、(29) 猪肉行、(30) 鷄鴨行、(31) 造鞋行、(32) 生油行、(33) 洋服行、(34) 印

三藩市唐人街の社会構造 (七)

三藩市唐人街の社会構造 (七)

刷行、(35)紙料行、(36)機器行、(37)建造行、(38)造船行、(39)首飾行、(40)当押行(質商)、(41)缶頭行、(42)化粧品行、(43)膠鞋行(ゴム靴)、(44)陶器行、(45)爆竹行、(46)製漆行、(47)塩業行、(48)麵粉行、(49)麻色行、(50)西餐行、(以下不明)。

(未完)